

「人口減少・高齢化社会を踏まえた集約型都市構造への転換に関する調査」

わが国では人口減少や高齢者層の増加により、余剰公共施設の増加や交通網等の維持コスト増大など、地域社会への様々な課題の発生が懸念されています。このような課題を解決し、よりよい生活環境を維持するための望ましい都市構造として「集約型都市構造」が注目され、具体的な実現に向けた取り組みの方向性が模索されているところです。

本調査では、集約型都市構造をめぐる先行研究をもとに、中国地方の各県から5都市を抽出し、DID¹の人口、人口密度、面積の変化パターンを分類した上で、人口最多地域(人口及び都市施設が最も多い地域)への人口の集中度と都市施設の集積バランスを分析しました。そして、集約型都市構造への転換における都市施設整備の手法や中国地方で実施されたモデル事例を紹介し、都市の変化パターン別の方向性やその留意点について示しています。

本調査報告書の構成

- 第1章 集約型都市構造をめぐる議論の整理
- 第2章 中国地方の都市の現状整理
- 第3章 中国地方の集約型都市構造への転換の方向性
- 第4章 集約型都市構造への転換における都市施設整備の手法
- まとめ 地方都市の将来展望

* 本調査は、中国経済連合会様と共同で行ったものです。

¹ 「Densely Inhabited District」の略。国勢調査の基本単位区を基礎単位とし、市区町村の境域内で人口密度の高い地域として設定された地域人口集中地区のこと。